

親切運動の取組について

学校名 舟橋村立舟橋小学校
児童数 192名

1 親切運動の取組の紹介

(1) 伝統のハーティ班活動

本校では、思いやる心と協力性等を育てるため、異学年の縦割り小集団であるハーティ班を組織し、交流活動を長年に亘り続けている。毎日の清掃をはじめ、運動会や春と秋に行われるイベント等、年間を通して活動し、交流を深めている。今年度から復活させた全校集会においてもハーティ班で並び、ゲームをしたり歌ったりして過ごしている。上級生はリーダーシップを養い、下級生は集団活動でのルールや協力することの大切さを学ぶことにつながっている。



(2) 主体性を伸ばす児童会活動

今年度の児童会は「舟っ子の5つの花(笑顔・元気・挑戦・協力・努力)を咲かせよう!」を合言葉に、様々な活動に取り組んでいる。中心となる運営委員は毎朝、児童玄関前に立ち、登校してきた子供たちに挨拶をしている。挨拶が上手な下級生を「あいさつ隊」にスカウトしたり、「笑顔の花を咲かせよう」大作戦を行ったりして、全校児童の挨拶への意識を高めようとしている。元気な挨拶が増えている。



(3) 地域を生かした学習活動

総合的な学習の時間に、サケやサクラマスを発眼卵から育て放流するという活動に継続的に取り組んでいる。9月には、サケやサクラマスを放流している川の美化活動を昨年度に引き続き行った。6年生親子を中心に、他学年の児童や保護者、地域の方々等、多数参加した。4年生は川の生き物調査を実施するとともに、水族館学芸員の指導の下、学校水族館の運営に汗を流している。様々な方々との触れ合いにより、生命への思いを深めている。

5年生は、近隣のこども園を訪問し、年長児と交流した。折り紙やお絵かき、トランプ等、様々な遊びのコーナーを設け、年長児を楽しませていた。また、11月の就学時健診の際にも園児に優しく声をかけたり、エスコートしたりする姿が見られた。



(4) 一人暮らしの老人宅訪問

6年生が赤十字奉仕団の皆さんと一緒に、地域の一人暮らしの老人宅を訪れ、メッセージカードを渡したり、話し相手になったりして、交流を深めた。核家族が多い地区であることから、お年寄りとの触れ合いは子供たちにとっては新鮮であり、喜んでくださるお年寄りの姿に感動する子供もいた。



2 親切運動に取り組んで

・ 取組の成果

学年学級を越えた児童や園児、地域の方々等、様々な人と体験を通して関わることで、相手との関わり方を考えたり関わるよさに気付いたりして、親切にしようとする心、相手を思いやる心が確実に育ってきている。

・ 課題と今後に向けて

体験後の振り返りを十分に行う時間を確保することで、自分の心をさらに見つめたり、他者のよさに気付いたりすることができるものと考えている。